二〇二五年度 大学入学共通テスト 解説〈現代文〉

第1問　評論　高岡文章（たかおかふみあき）「観光は『見る』ことである／ない――『観光のまなざし』をめぐって」

［総　括］

観光における眼差しをテーマにした文章。「する」観光と「見る」観光、「見る」主体と「見られる」客体といった単純な二項対立にとどまらず、「する」と「見る」は不可分な「ともに踊る」関係であり、「見る」側が「見られる」側に反転することもあるといった、二項対立的図式を踏み越えた内容理解が求められた。ただ、問2～問6では、選択肢の数が昨年までの5つから4つに減ったこともあり、また、根拠の範囲も明確であったため、全体としての難易度は昨年よりも易化したと思われる。

［解　説］

問1　漢字問題　基礎

傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア)　雑**貨**　①**価**格　②**稼**働　◎③**外貨**　④転**嫁**

(イ)　散**策**　①圧**搾**　◎②**策**謀　③添**削**　④模**索**

(ウ)　**呈**した　①音**程**　◎②贈**呈**　③世間**体**　④前**提**

(エ)　一**掃**　①改**装**　②荘**厳**　③**捜**査　◎④**掃**除

(オ)　**忌**まわしい　◎①禁**忌**　②**鬼**気　③**危**惧　④**棄**権

(イ)の「散策」の「策」には〈はかりごと・計画〉という意味のほかに「杖をつく」という意味がある。散策は〈杖を突きながら歩き回る様子〉が元の意。〈求める・探す〉という意味の「索」（模索・探索・検索の「索」）と間違えないようにしたい。

(ウ)の「呈」するは〈①差し出す・贈る　②現す・示す〉の意。

(エ)の「一掃」は〈残らず払いのける〉の意。同音異義語に「一層」・「一艘」などがある。共通テストでは同音異義語の出題が多い。文脈に留意して解答したい。

(オ)の①「禁忌」は〈忌み嫌い、慣習的に禁止したり避けたりすること。またそのもの。タブー〉の意。

漢字の学習は、読解力の基礎となる語彙力をつけるためのものでもある。積極的に学習時間に取り入れよう。

問2　内容説明問題　標準

傍線部A「観光地住民の『戦略』は常に綱渡りである」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

解答にあたって把握、確認しておかなければならないことは以下の三点。

❶観光地住民の「戦略」とは何か
❷観光地住民の「戦略」が、「常に綱渡り」であるのはなぜか
❸観光地住民の「戦略」が、「常に綱渡り」であるとはどういうことか

❶については第三段落に説明がある。すなわち「観光という荒波から自らの生活文化を守るため」に、「観光者が期待する（押しつける）イメージに適合的な役割を観光地住民が再演すること」である。

❷については、傍線部Aの前後に説明がある。すなわち「観光（の一部）を支えている」のは「おぞましいものへの欲望」であり、観光者は（現地住民の）「演出」に飽き足らずその「舞台裏」を見たがるから、というものである。

❸については、傍線部Aの二文後に説明がある。すなわち「ありのままを見せる生活観光は、出口の見えない隘路でもあるだろう。そこでは観光のまなざしが全域化していく」、平たく言えば、〈現地住民の演出に満足せず、その舞台裏まで見ようとする観光者の欲望に応えようとすることは、自分たちの生活をどこまでもさらけ出さねばならなくなるということであり、リスクのある行為（「綱渡り」）だということ〉ということになるだろう。

以上の三つの要素を正しく説明している選択肢が正解である。どの選択肢も次に示すような同じ構造を取っていることに着目すると正解を選びやすい。

――観光地住民の「戦略」は（❶）、――ために（❷）、――ということ（❸）。

①は❷の要素と❸の要素が誤り。
②は❶、❷、❸の要素が全て誤り。
③は❸の要素が誤り。
④が正解。

問3　内容説明問題　標準

傍線部B「観光において『見る』ことは問題含みであるだけでなく、とくに『する』こととの対比において、価値のないものとみなされてもきた」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

把握すべきは以下の二点。

❶観光における「見る」ことの問題点（「する」生活者⊕↔「見る」観光客㊀）

❷「見る」ことが価値のないものとみなされてきた理由（「する」旅人⊕↔「見る」観光客㊀）

❶については傍線部の次の段落（第七段落）に説明がある。すなわち「（観光の場面においては）見られる側、つまり生活『する』側が主役であり、それを『見る』側は観客にすぎない。……その土地に暮らし働く人びとこそが当事者なのであり、彼らの生活や文化を覗くために訪れて、そそくさと立ち去っていく観光者たちは招かれざる客として位置づけられてきた」ということだ。

❷についてはブーアスティンによる批判（「観光のまなざしにおける消費主義や薄っぺらさを鋭く批判したのはブーアスティンだった」）として第八段落で紹介されている。すなわち「かつての旅人（トラベラー）が没落したかわりに観光客（ツーリスト）が台頭した。それは旅行が『自分のからだを動かすスポーツから、見るスポーツへと変化した』ことを意味していた。『する』から『見る』への転換。旅は能動的で命がけの行為から、購入するだけのお気楽な商品へと、『無意味』で『空虚』なものへと成りさがった」といった内容である。

以上の二点を正しく説明しているのは③の選択肢。正解は③。

①は❷の要素が誤り。「「見る」主体の位置づけに変化が生じた」という説明は不正確。「見る」旅の価値が「する」旅に比べて下がったのである。

②は「観光研究やブーアスティンによって」という形で、❶の「観光研究」の視点と❷の「ブーアスティン」の視点が一緒くたにされてしまっている点が誤り。また、「観光における『見る』ことの役割が後退した」という説明も不適。

④も②と同様、❶の「観光研究」の視点と❷の「ブーアスティン」の視点が一緒くたにされてしまっている点が誤り。また、「『見る』側の観光客が無意味な存在に貶められた」という説明も不適。

問4　理由説明問題　標準

傍線部C「ことはそれほど単純でもない」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

傍線部の「それほど単純でもない」という表現が指しているのは、〈ブーアスティンの観光論を時代錯誤の理想論として簡単に批判できるほど単純でもない〉ということだ。そしてその理由は次の第十段落の「表層的な観光のありかたへの飽き足らなさや批判は、現実に観光の形を大きく変えてきた」、続く第十一段落の「近年、観光現象だけでなく、観光研究の視座までもが更新を迫られるようになった」という内容にかかわっている。まとめれば以下の二点がその理由だ。

❶従来の表層的な「見る」観光への批判が、「体験」「交流」「学習」をキーワードとする「する」観光への転換を促したから（第十段落）

❷観光を単に「見る」こととしてきた従来の観光研究が、近年、観光における身体性やふるまいを重視するものへと、その視座の更新を迫られるようになったから（第十一～十二段落）

以上の二点を正しく説明している選択肢は②。正解は②である。

①は❶の説明にあたる「その土地の生活を体験するプログラムを人気の観光商品に押し上げることにつながり」という部分が具体例の一つに過ぎないので誤り。

③は❶の要素が誤り。「『する』観光」と「かつての旅人による能動的な（命がけの）旅を再現する観光」とは同じではない。

④は❷の要素が誤り。

問5　表現に関する問題　応用

傍線部D「『ともに踊る』」はアーリとラースンの『観光のまなざし』第三版からの引用表現であり、筆者は傍線部E「『ともに踊る』」でその表現を再度用いている。これらの表現の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

「ともに踊る」という表現が、文脈上、二者択一とすることのできない不可分な関係を表すものであること（❶）を理解した上で、傍線部D・傍線部Eそれぞれの「ともに踊る」という表現が指しているもの（何と何が「ともに踊る」のか＝何と何が不可分な関係なのか）をそれぞれ把握する。

傍線部D……「まなざし」と「パフォーマンス」（❷）

傍線部E……「資本が演出する記号」と「他者の身体」（＝「渋谷という都市」と「そこを歩く人びと」）（❸）

以上、三つの要素を把握した上で、各選択肢の検討に入る。

①は❶の要素が誤り。「ともに踊る」という表現は「重要な視点」「重要な対象」という意味ではなく、切り離せない不可分な二者の関係を意味するものとして本文では用いられている。

②は❶、❷、❸いずれの要素も正しく説明している。

③は❶、❷、❸全ての要素が誤り。

④も❶、❷、❸全ての要素が誤り。

したがって正解は②。

問6　内容説明問題　応用

傍線部F「観光における『見る／見られる』を考えるうえで、サファリパークは示唆的である」とあるが、文章中に示された「見る／見られる」の事例との関係において、サファリパークはどのような意味で「示唆的」であると考えられるか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

「示唆的」とは〈間接的に手がかりを示すさま。物事が深い意味を含み、考えるきっかけを提供する性質を持つこと〉を意味する表現。「サファリパーク」が示唆的なのは、傍線部Fの直後に書かれているように、ここでは動物を「見る」人間たちが、同時に動物たちから「見られる」存在でもあるからだ。この論点は傍線部Fの一つ前の段落（第十七段落）でも「観光者が地元住民をまなざすとともに地元住民も観光客をまなざす」「『相互のまなざし』」として述べられていた。

このような「『相互のまなざし』」の場として「サファリパーク」を説明している選択肢は②のみ。したがって正解は②である。

①は「一方でサファリパークでは、見る主体である人間の欲望と、物欲しげに人間を眺める動物の欲望との違いが現れる。このようにサファリパークは、ゲスト側のまなざしとホスト側のまなざしとの非対称性を考えさせる点で示唆的」の部分が誤り。サファリパークでは、見る主体である人間が、動物に見られる客体にもなる。

③は「同様にサファリパークにおいても、主役はそこに暮らす動物であり、人間は観察者として通り過ぎるだけの存在である。このようにサファリパークは、見る側の観光者が『招かれざる客』であることを想起させる点で示唆的」が誤り。サファリパークを「相互のまなざし」の場として捉えていない。

④は「同様にサファリパークでも、動物を見る他の客の邪魔をしないよう注意を払ったり、他の客と一緒に動物を観察しようとしたりする。このようにサファリパークは、観光者相互のコミュニケーションのあり方に注意を促す点で示唆的」が誤り。やはりサファリパークを「相互のまなざし」の場として捉えていない。

第2問　小説　蜂飼耳（はちかいみみ）「繭の遊戯」（二〇〇五年発表）

［総　括］

第2問は蜂飼耳「繭の遊戯」からの出題。詩人でもある作家の小説で、比喩的な表現の多い簡潔な文章だった。設問の選択肢がすべて4つになっており、正解を選ぶ時間の手間は省けると思われる。ただし、心情や表現に関する問いで、傍線部周辺にヒントとなる説明が少ないだけに、正解を選ぶのは必ずしも簡単ではない。

［解　説］

問1　内容説明問題　標準

傍線部A「音を探すふりをする。心をこめるように爪弾く。」とあるが、ここで「わたし」が捉えているおじさんの様子はどのようなものか。最も適当なものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。

傍線部Aを含む一文の、「～なのに、～音を探すふりをする」という逆接に注目すると、おじさんも「わたし」も、曲のつづきをおじさんが知らないことをわかっている。それなのにおじさんは「音を探すふりをする」のだから、ここでの「音を探すふり」とは、〈曲のつづきを思い出すふりをする〉という意味だろう。また、「おじさんは目を泳がせて、A～ふりをする。心をこめるように爪弾く。」という文脈から、おじさんがそのような「ふり」をするのは、途中までしか弾けないことへの動揺や焦りを糊塗（こと）（一時しのぎに表面を取り繕い、曖昧にすること）するため、ということがわかる。ちなみに「目を泳がせ」るとは、動揺や焦りが表情に表れている様子を指す慣用句。

以上から正解は①。

②は「大切な曲であることを『わたし』に伝えるために」が誤り。

③は「曲が弾けなくて気落ちしていることを『わたし』に悟らせないために」が誤り。

④は「落胆を隠すため」が誤り。「目を泳がせて」とあることから、ここでは〈動揺している自分を糊塗するために〉といった内容になっていなければならない。また、「音を探すふり」（＝曲のづつきを思い出すふり）についての言及がない点も誤り。

問2　心情説明問題　標準

傍線部B「そのとき、わたしのなかでむくむくと目を覚ましたのは、母に似たものだった。」とあるが、このときの「わたし」に起こった心の動きの説明として最も適当なものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。

おじさんに対する母の態度については、22～24行目の箇所に表れている。「いつまでも親のスネかじって」「お母さんが甘いからよ」といった表現から読み取れるように、母は、自分の弟であるおじさん、いい年なのに親に依存して生活しているおじさんに対して甘いところが一切ない。そのような母に似たものが「わたし」のなかに湧き上がってきたというのである。そしてその矛先は、子どもの目にも「切れがな」いと感じられる鶴の絵を、「悪くないよね」「悪くないでしょ」と何度も言ってくるおじさんに対して向けられる。「あひるみたい」「鶴ってもっと、スマートだよ」。

以上の読み取りを踏まえて選択肢を検討する。

①は「自分の作品に不足している点がないかを気にしているおじさん」が誤り。また、「あえて厳しい意見を述べて」も誤り。「わたし」は率直に厳しい意見を述べている。

②は「作品の出来の良さを疑わず」が誤り。

③は「自分の作品に自信がない様子であるおじさん」が誤り。また、選択肢後半の「作品の出来ばえに対する失望感からも自分が気づいた欠点を告げようと思った」も誤り。

④は「作品の完成度が高くないにもかかわらずよい評価を求めるおじさん」という部分が、「悪くないでしょ」と何度も言ってくるおじさんの言動に対応し、「現実を突きつけたい気持ちが生じ」が、「母に似たもの」が「むくむくと目を覚ました」という傍線部の内容に対応し、また「感じたことを率直に伝えようと思った」の部分が、傍線部の少し後にある「いいと思わないものを、いいとはいえない。いってはいけない。」という内容に対応している。

正解は④。

問3　内容説明問題　標準

本文22行目から27行目と51行目から56行目の二箇所には、おじさんの生き方に対する母と祖母との姿勢の違いが表れている。その違いの説明として最も適当なものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。

おじさんの生き方に対する母の姿勢

↓「いつまでも親のスネかじって」「お母さんが甘いからよ」「焼き物をやるっていっても、なにも習わないで、そんな我流でやっているだけじゃどうしようもない、仕事になんかならない」

＝生活も収入も親に依存しているおじさんの生き方に対して批判的であり、お金になる仕事をして自立すべきだと思っている

おじさんの生き方に対する祖母の姿勢

↓「あんなに器用なんだったら、少しは活かせばいいようなものだけど」

＝おじさんの良い部分にも目を向けており、それを現実社会に活かせていないことを残念に思っている

※51行目から56行に関しては、「母がいないとき祖母はそんなふうに呟いた」の箇所を根拠にする。母がいるときの祖母の言葉は、自分を責めてくる娘（母）に対しての言い訳めいたものであり、「おじさんの生き方に対する姿勢」を直接表しているとは言い難いため。

以上を踏まえて選択肢の検討に入る。

①は「祖母はいつかは実力を見せるだろうと期待している」の部分が誤り。

②は前半も後半も誤り。

③は前半、後半、ともに正しい。正解は③。

④は「祖母はもうどうしようもないのでこれ以上は叱ってもしかたがないと諦めている」が誤り。本文の「だって、あたしが産んだんだから、どうしようもない」という祖母の言葉は、自分を責める娘（「母」）に対して向けられたものであり、おじさんの生き方に対して「どうしようもない」と諦めているわけではない。母と祖母の姿勢の違いとは、おじさんの良い部分に目を向けているか否かの違いである。

問4　二箇所で用いられている同じ表現に関する問題　標準

波線部Ⅰ「がっかり、という気もちには、かわいそうだ、と思う気もちが混ざっていた。」、波線部Ⅱ「すごい、と思いながら、がっかりした。」とあるが、この二つの「がっかり」にはどのような違いがあるか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

本文のⅠの箇所とⅡの箇所に戻り、それぞれの文脈における「がっかり」の意味を把握する。

Ⅰの「がっかり」

→頼むとギターを弾いてくれるものの、いつも途中でわからなくなってしまうおじさんをかわいそうに思い、哀れむような気持ち。

Ⅱの「がっかり」

→オカリナを独学で自作できるおじさんが、（仕事をしてお金を生み出すことができずに経済的に親に依存しているために）、オカリナを作れない他の大人たちから怒られ、文句を言われ続けることに対する残念な気持ち。

この内容を踏まえて選択肢を検討すると、正解は④。

①は前半の「子どもの期待を裏切るおじさんに同情していた」が誤り。また後半の「優れた作品を生み出して人を感動させられないために家族から怒られてばかりいる」も誤り。家族が怒るのはお金を生み出す仕事をしていないからである。

②は前半の「取り組んでいることをやり通せないおじさんの意志の弱さを」が誤り。また後半の「何かに絞ってそれを完成させようとはしないために大人には受け入れてもらえないこと」も誤り。大人に受け入れてもらえないのはお金を生み出す仕事をしていないからである。

③は前半の「取り組んでいることが向上しなくてもよいと思っているおじさん」が誤り。また後半の「それ（自分の資質）を母や祖母に理解させようとしないために家族から罵られ」も誤り。家族から罵られるのはお金を生み出す仕事をしていないからである。

問5　表現に関する問題　標準

本文の表現に関する説明として**適当でないもの**を、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。

選択肢を一つずつ検討していく。「適当でないもの」を選ぶことに注意。

①は適当でない。「耳が聞こえなくなった鳥のように」と「閉じこめられた虎のように」は、たしかにおじさんが不本意な状況におかれていることを表した比喩だと捉えることができるが、「繭に籠り」は、おじさんが自分で建てた小屋の中に引きこもっている様子を表す比喩であり、不本意な状況におかれていることを表しているわけではない。

②の「叩く。聞こえないのかな。重たくざわつく南天の繁み。もう少し強く叩く。」は、過去形ではなく現在形で表現されており、「『わたし』がおじさんの小屋を訪れた体験をその時点に立って臨場感（まるでその場にいるかのような感じ）をもって表している」という説明は適当。

③の「そのとき、わたしはなにかを、教えられていたのだ。」は、「でも、そういう考えを（当時は）ひろげることはできず……」と続く文脈であり、したがって「語り手『わたし』が幼少期の体験を振り返り、現在の視点からの解釈も加えて語っていることを表している」という説明は適当。

④の「オカリナが、いくつも息を殺して夜明けの玉子のようにじっとしていた」は、おじさんの自作のオカリナを玉子になぞらえており（直喩）、また「オカリナが……じっとしていた」と、オカリナをまるで人間のように表現しているので、「オカリナを玉子になぞらえるとともに擬人法を用いて、おじさんの作品を印象的に表している」という説明は適当。

正解は①。

問6　心情説明問題　標準

傍線部C「触角の取れた虫。方向感覚を破壊された鳥。それは、どういうことなのだろう、と。おじさんの心配をしながら、自分も晴れない霧につつまれた。」とあるが、このときの「わたし」の心情の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

傍線部Cの直前に「他の人たちから見れば意味が薄いことを、自分の熱意だけでつづける。どこへ繋がっていくのか、わかりもしないまま。」と述べられているおじさんの生き方を、「わたし」が自分に重ね合わせ、先行きの見えない不安を感じているのが傍線部Cである。傍線部Cの直後の「なにも作れない自分は、どうすればいいんだろう、と。」は倒置法であり、傍線部Cにつながっていることに留意する。

以上を踏まえて選択肢を検討すると、正解は①。

②、③、④には、「わたし」が、おじさんの生き方と自分の生き方を重ね合わせていること（「おじさんの心配をしながら、自分も晴れない霧につつまれた」＝〈おじさんの生き方＝わたしの生き方〉）への言及がない。②の「～自分が、おじさんのためにできることはないか悩んでいる」、③の「それ（おじさん）に振り回され続けることになる自分たち」、④の「いつも周囲の大人に否定され文句を言われ続けるおじさんの内心を測りかね、途方に暮れている」は、いずれも、〈わたし（自分）≠おじさん〉というノットイコールの関係を前提にした内容。

問7　心情説明問題

傍線部D「曲にはならない。ただ、ばらばらの音。吹いていると、身体の表面が分厚く剝がれ落ちる気がする。それを拾い集めるべきかどうか、わからない。捨てておいていい、殻のようなものかもしれない。」とあるが、「わたし」は結末部分でどのような心情になったと考えられるか。その説明として最も適当なものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。

すべての選択肢が「冒頭の『わたし』は～。それに対して結末部分の『わたし』は～」という構造になっており、冒頭の「わたし」と結末部分の「わたし」の相違点を把握することが要求されていることに着目する。

相違点を把握するためには、共通の対象、つまり「何についての相違点か」をつかまねばならない。冒頭の「わたし」と結末部分の「わたし」を比較してみよう。

冒頭の「わたし」

→（ギターを）受け取り、抱えてみる。鳴らしてみる。どんなメロディーにもなりはしない。つまらないというより、不安だった。自分でばら撒いたおかしな音に、自分で不安になるのだった。「返す」「もう、いいの」。

結末部の「わたし」

→誰もいないところへ行って、オカリナを吹く。曲にはならない。ただ、ばらばらの音。吹いていると、身体の表面が分厚く剝がれ落ちる気がする。それを拾い集めるべきかどうか、わからない。捨てておいていい、殻のようなものかもしれない。

こうして比較してみると、冒頭と結末部分で共通しているのは「わたし」が楽器で音を鳴らしていること、そして相違点は、その「自分が鳴らした音」を「わたし」がどう捉えているかということであることがわかる。

冒頭の「わたし」が「自分でばら撒いたおかしな音に、自分で不安にな」って、弾くのをやめているのに対し、結末部分の「わたし」は、ばらばらの音を吹いているうちに、「身体の表面が分厚く剝がれ落ちる気がする」が、それを「捨てておいていい、殻のようなものかもしれない」と感じてい

る。この表現は、「わたし」が無秩序なものを切り捨てて秩序ある世界へと脱皮しようとしていることを表現していると解釈することができる。

以上を踏まえて選択肢の検討に入る。すると、右のような「自分が鳴らした音に対する相違点」について述べているのは④のみ。したがって正解は④。傍線部の「身体の表面が分厚く剝がれ落ちる気がする。それを拾い集めるべきかどうか、わからない。捨てておいていい、殻のようなものかもしれない」という表現は、「わたし」に起きつつある何らかの変化を暗示しており、④の後半の「自身の価値観が揺らぎ始めていることを自覚しつつある」は、その妥当な説明といえるだろう。

第3問　実用的文章

【資料Ⅰ】　外来語に関する意識調査の問題（**図1**～**3**は帯グラフ）

【資料Ⅱ】　「インフォームドコンセント」の言い換えの提案

【資料Ⅲ】　外来語に関する意識の２００２年と２０２０年の比較（**図4**は折れ線グラフ）

［総　括］

第3問の実用的文章は、今年（２０２５年度）から導入された新傾向の問題。全体の構成は、わかりやすい言葉づかいについて自分の考えを書くという課題を与えられたUさんがまとめた**【文章】**と、Uさんが集めた資料を自分でまとめ直したもの（**【資料Ⅰ】【資料Ⅱ】**）から成っている。また、**問3**で**【文章】**の根拠となる**【資料Ⅲ】**が追加で提示されている。設問は**問1**～**問3**。マーク数は5つ。**【資料】**の読み取りや**【文章】**の加筆方針・修正方針に関する設問を含むものであり、２０２２年に発表された2種類の試作問題（第B問）の要素が大きく入っていた。

［解　説］

問1　文脈と帯グラフの読み取り問題　標準

> Uさんは、「インフォームドコンセント」という語に注目する理由を明確にするため、**【文章】**の1段落の（**X**）に文を書き加えることにした。書き加える文として最も適当なものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。

文脈から、（**X**）に入れるべき内容は、**【資料Ⅰ】**に矛盾しない内容でなければならない。また、文脈と設問文から、（**X**）に入れるべき内容は、〈外来語をわかりやすく言い換えることに意義があったといえる根拠〉でなければならない。この二つの要件を満たす選択肢は②のみ。正解は②。

①は**図1**のグラフの内容（「インフォームドコンセント」は他の語に比べて多くの人が外来語のまま使用しないほうがよいと答えている）と矛盾する。また〈外来語をわかりやすく言い換えたことに意義があったといえる根拠〉になっていない。

③の内容は、**図2**、**図3**からは読み取れない（「インフォームドコンセント」が特に他の語より年代ごとの意識の差が大きいかどうかは、他の語に関する年代ごとの資料がない以上、わからない）。また、③の内容は**【文章】**の趣旨とも無関係。

④の内容は、**図3**からは読み取れない（他の語との比較がない以上、「特に『インフォームドコンセント』については」とはいえない）。

問2　文脈と資料の読み取り問題　標準

Uさんは、**【文章】**の傍線部A「意義があった」について、どのような意義があったのかを具体的に示すため、表現を修正することにした。修正する表現の内容として最も適当なものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。

傍線部Aに至る文脈（「当時、その概念は浸透していなかった。この言い換えの提案は、そうした状況のなかで、意義があったと考えられる」）から、ここでの「意義」とは〈診療場面で重要であるにもかかわらず、十分に浸透していなかった「インフォームドコンセント」の概念を浸透させた意義〉ということであろう。

そのことを**【資料Ⅱ】**で確認すると、**【手引き】**の二点目に「医療を中心に、現代社会における重要概念として、普及定着が望まれているが、現状では意味を理解している人は少ないので、言い換えや説明付与などの必要性は高い」とある。

以上の内容を踏まえている選択肢は④のみ。正解は④。

①は「外来語を身近な日本語に言い換えるという発想を広めようとする点」が誤り。ここでの「意義」はそのような漠然とした発想の普及にではなく、〈インフォームドコンセントが意味する概念の普及〉にある。

②は「医師の使う外来語を患者が適切に理解した場合の効果を社会に伝えようとする点」がここでの「意義」の説明として不適。

③は「患者の訴えを医師が十分に理解して受け止めることの重要性を確認していこうとする点」が、そもそも〈医師の説明を十分に理解した上で患者が納得したり同意したりすること〉という「インフォームドコンセント」の概念とズレている。

問3

Uさんは、**【資料Ⅲ】**を用いて**【文章】**の3段落の主張に根拠を加え、さらに**【文章】**の全体を整えることにした。これを読んで、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

(i) **折れ線グラフとそれについてのメモの読み取り問題　応用**

Uさんは、**【文章】**の3段落の傍線部**B**「時代が進んでも社会全体として外来語の増加を当然だと考える人が大きく増えるとは限らない」という主張を明確にするため、**【資料Ⅲ】**を用いようと考えた。**【資料Ⅲ】**から読み取れる根拠として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

適当でないものを選ぶことに注意。**【資料Ⅲ】**の**【図についてのメモ】**を適宜参照しながら、**図4**「**『外来語が増えるのは当然だ』とする人の割合**」を表す折れ線グラフと各選択肢の内容を照合する。

①は適当。**図4**で、二〇〇二年と二〇二二年の六〇代以上を除く各年代について、「同じ年代どうしを比較」すると、次のようになる。

	二〇〇二年	二〇二二年
20代	86％	85％
30代	76％	77％
40代	78％	74％
50代	64％	69％

したがって「大きな変化が見られない」という読み取りは適当。

②は適当。**【図についてのメモ】**の一番下に「回答者全体のうちAに賛成した人の割合は、2002年と2022年でそれぞれ63％、64％である。」とある。

③は適当。**図4**で〈生まれた年を基準にした同じ世代〉で比較すると（**【図についてのメモ】**参照）、次のようになる。

二〇〇二年		二〇二二年
20代―86％	＜	40代―74％
30代―76％	＜	50代―69％
40代―78％	＜	60代―60％
50代―64％	＜	70代―49％

したがって二〇二二年の調査では「外来語が増えるのは当然だと回答した人の割合が低い場合が多い」という読み取りは適当。

④は適当でない。**図4**で「外来語が増えるのは当然だと回答した人の割合」は、二〇〇二年の六〇歳以上が42％であるのに対し、二〇二二年の六〇代で60％、七〇代で49％、八〇歳以上で44％と、二〇二二年の方が軒並み高くなっている。

③の「生まれた年を基準にした同じ年代」での比較ではなく、④では比較対象があくまで二〇〇二年の「六〇歳以上」（42％）であることに留意すること。

以上から正解は④。

(ii)　**適当な加筆・修正の方針を選ぶ問題　応用**

> さらにUさんは**【文章】**全体を読み直し、加筆・修正したいと思ったことを書き留めた。加筆の方針として最も適当なものを次の①～③のうちから一つ、修正の方針として最も適当なものを次の④～⑥のうちから一つ、それぞれ選べ。

Uさんが加筆・修正を加えようとしている**【文章】**が、リード文にあるとおり、「わかりやすい言葉づかいについて自分の考えを書く」という課題に対して書かれたものであり、「外来語をわかりやすく言い換える提案」をその例としてまとめたものであることに留意する。つまり、**外来語をそのまま使うよりも、言い換え語を用いた方が「わかりやすい言葉づかい」になる場合があるのではないかというUさんの主張**に沿った加筆・修正の方針になっているかどうかを判断基準にしなければならないということである。それに加えて**【文章】**の内容や**【資料Ⅰ～Ⅲ】**と齟齬（そご）（食い違い）をきたさないかどうかも考慮した上で適当な選択肢を選ぶ。

各選択肢を検討していこう。

①は「かつて言い換えを求められた外来語がその後どれだけ定着したかを示すため」という部分がUさんの主張に反する。不適当。

②はUさんの主張に沿った加筆方針であるため、適当。

③は「外来語の言い換えが現在ではより一層重要になっていることを示すため」の部分が3段落の「外来語をわかりやすく言い換える必要性が今後なくなるわけではない」というニュアンスに反する。また、「**【資料Ⅲ】**をもとに、外来語を頻繁に使う人が増加していく傾向にあるということを説明する」とあるが、**【資料Ⅲ】**からそのようなことは読み取れない。不適当。

④はリード文にある「わかりやすい言葉づかいについて自分の考えを書く」という課題に対しての結論として、「『一つ一つの外来語の意味を適切に理解していくことが重要である』」は不適当。Uさんの主張は〈外来語をそのまま使うよりも、言い換え語を用いた方がわかりやすい言葉づかいになる場合がある〉というもの。

⑤の「『伝える相手や目的に応じて語句を使い分けていくことが重要である』」は、与えられた課題に対しての結論として適当であり、〈外来語をそのまま使うよりも、言い換え語を用いた方がわかりやすい言葉づかいになる場合がある〉というUさんの主張とも合致する。たとえば医療関係者同士の会話であれば「インフォームドコンセント」という外来語をそのまま用いても問題はないだろうが、医師と患者の会話であれば「十分な説明を受けた上での同意」という言い換え語を用いた方がわかりやすい場合が多いだろう。適当。

⑥の「『医師の使う用語の概念が患者に伝わるかに注目することが重要である』」の部分は、与えられた課題に対する結論として具体的すぎるため、不適。「インフォームドコンセント」はあくまで〈わかりやすく言い換えるべき外来語〉の例にすぎない。

以上から、加筆の方針として最も適当なものが②、修正の方針として最も適当なものが⑤、この二つが正解となる。